

## 会 議 録

会 議 名	令和4年度 第2回 目黒区環境審議会
日 時	令和4年9月28日（水）午後6時30分～午後7時30分
会 場	中目黒G Tプラザホール
出 席 者	委員) 前田委員、成田委員、湯浅委員、武藤委員、橋本委員、松嶋委員、日暮委員、 比護委員、小林委員、古賀委員、川口委員、高橋委員、伊藤委員、原委員、 曾良委員、金澤委員、土倉委員、片居木委員 合計 18名
	区職員) 環境清掃部長、環境保全課長、清掃リサイクル課長、清掃事務所長 合計 4名
傍 聴 者	1名
配 付 資 料	(事前送付) 資料2 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に 向けた基本的方向について 答申案 資料3 「令和4年度版めぐろの環境（環境報告書）」の発行について 資料4 令和4年度住宅用再生可能エネルギー及び省エネルギー設備設置費助成 事業の実施について 参考資料 目黒区実施計画（No. 35 抜粋） 資料番号なし 令和3年度第2回目黒区環境審議会会議録 資料番号なし 令和4年度第1回目黒区環境審議会会議録  (机上配布) 資料1 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向け た基本的方向について 答申かがみ文（案） 資料番号なし 令和4年度版めぐろの環境（環境報告書）本編／概要版 資料番号なし 本日の議事についてのご意見 資料番号なし 目黒区環境審議会委員名簿・座席表
会 議 次 第	1 開会 2 議題 (1) 審議事項 目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向けた 基本的方向について 答申案 (2) 情報提供 ア 「令和4年度版めぐろの環境（環境報告書）」の発行について イ 令和4年度住宅用再生可能エネルギー及び省エネルギー設備設置費助成 事業の実施について 3 その他 4 閉会

<p>会議の結果 及び 主要な発言</p>	<p><b>1 開会</b></p> <p>以下、(1)から(4)について、区において確認。</p> <p>(1) 出席者数及び定足数の確認</p> <p>(2) 会議公開の取扱いの確認</p> <p>(3) 傍聴希望者の確認</p> <p>(4) 配布資料の確認</p> <p><b>2 議題</b></p> <p><b>(1) 審議事項</b></p> <p><b>目黒区環境基本計画及び目黒区地球温暖化対策地域推進計画の改定に向けた基本的方向について 答申案</b></p> <p>○事務局 (資料1、2、参考資料に基づき説明を行った。)</p> <p>○会長 事務局から説明のあった内容を踏まえ、ご意見等があれば発言をお願いしたい。 本日は、答申案をまとめるということで、8月19日の第1回審議会で中間のまとめをお示ししてご意見をいただいた。それを基に、9月2日の専門委員会でさらに議論し、意見を反映させ本日の答申案に整理したという経緯になる。 先ほど説明のあったとおり、下線を引いたところが修正したところであり、前回の皆さんの意見と専門委員会の意見を反映している。 そういった点を踏まえて、答申案についてご意見があれば発言をお願いしたい。</p> <p>○委員 答申案の後は区が一つひとつの施策を推進していくのか。</p> <p>○事務局 答申案の方向性を基に、区が施策を肉付けしていき、体系化し、素案としてまとめていく。</p> <p>○委員 どのような取組をしていくのかということを説明するのは、区が行っていくということで、理解した。</p> <p>○委員 「レジリエントなまち」、「カーボンニュートラル」、「コジェネレーションシステム」等、全体的にカタカナの表現が多いと感じた。今後計画を作るにあたり、区民が身近に接して、自分事として取り組んでいくことが望まれるが、内容に横文字が飛び交うと難しくなる。ほかにもっとわかりやすい言葉はないのか。計画策定時には、もう少し配慮いただきたい。 また、「カーボンニュートラルの未来をつくる」のところで、エネルギー問題について書かれているが、非常に大きな問題だと思う。エネルギー問題は、再生可能エネルギーやいかにエネルギー消費量を減らしていくか等を、大きな視点で考えていく必要があると思う。国のエネルギー基本計画には、原子力発電で20～25%</p>
-------------------------------	--

を賄うとしており、「脱炭素」に対して、原子力発電を増やしていくという手法が採られる。一方で、「放射能汚染」問題は、最悪の環境破壊であり、そういう問題をどう考えるかというのは非常に重要な視点ではないかと思う。私の意見としては、エネルギー施策を考えるのであれば、環境を1番に置くという意味でも原発はふさわしくないと思っている

○事務局

わかりやすさへの配慮について、ご指摘の通りであるが、答申はこの内容でいきたいと思う。これから素案を作っていくが、区民の皆様が横文字ばかりで計画を読むことが嫌にならないように、注釈をしっかりと入れていく。言い換えられる言葉もなかなかないため、趣旨や意図が伝わるように、最大限配慮していく

国のエネルギー基本計画で、再生可能エネルギーは18%から36%にしていく必要があるとされ、そういった中で一定程度原発が必要という方向になっている。ご意見は理解できるが、区の環境基本計画では、区で取り組めることを進めていくので、エネルギー政策や安全保障の面は国が責任をもって担っていくというスタンスであり、区の環境基本計画で方向性を示す考えはない。

○委員

目黒区内で電気を消費していく中で、その電気の発生源は、火力発電なのか、再生可能エネルギーなのか、原子力発電なのかといったことは、区民の関心も高いのではないかと。 「カーボンニュートラルの未来をつくる」の現状と課題の中に、どういった風に作られている電気なのか、また、その電気が真により良い未来のための電気なのかという視点は必要ではないか。

○事務局

再生可能エネルギーの普及は積極的に進めていきたい。再生可能エネルギー及び省エネルギー設備の設置助成を行っており、今年度も申し込みが順調に増えていて、区民のニーズも高いと実感しているところである。太陽光発電と蓄電池の組み合わせで防災面での役割も説明し、多くの方に普及していきたいと考えている。今後、素案に事業としても記載していく。

○委員

公園や駅前広場などでグリーンクラブが苗植えや花を育てているが、答申案には記載がなかった。10ページの1行目～2行目の「住民活動への支援」のところに、例示する形で「グリーンクラブなど」の記載を加えてはいかがか。

○事務局

ご意見を踏まえて、検討する。

○委員

前回の審議会の際に、昨今のエネルギーに関する政策や法律のなかで、ZEBを盛り込んではいかがかと提案した。今回の答申案に記載は見当たらないが、専門委員会等で議論された中で、このような結果になったと理解している。ただ、文章の中で、ZEBを意識した部分や、読み解ける部分を教えてほしい。無理して読めば、7ページの「脱炭素型まちづくりの推進」に“ビルは省エネルギー性能が高い建物と

なるよう…”という記載があるので、ここから読み解けるかとは思っている。

○事務局

ZEBの重要性は認識しているが、答申については大きな方向性を示してもらおうということなので記載していない。素案のなかで施策としてお示ししていくことを考えている。

○会長

補足すると、7ページの「脱炭素型まちづくりの推進」は関連していると理解している。それから、5ページにも“住宅や建物の省エネルギー化に向けた支援”“住宅や建物への導入を促進”といった記述をしており、ZEBという言葉自体の記載はないものの、考え方は3～4カ所くらいに散りばめられていると認識している。

○委員

内容は多岐にわたり最近のトピックも捉えていると思う。いずれの施策も取り組むべきだとは思いますが、一方で、すべて取り組むには区の予算にも当然限界があると考える。それぞれの施策に対する費用対効果を意識し、区として最も効果的な施策に優先順位を決めて取り組む必要があると思う。非常に多岐にわたりあらゆる観点から総花的で美しいが、限られた予算の中で全部は難しい。区の方で、費用対効果を見て、どこに重点的に予算をつけて施策を展開していくかが重要と考える。

○事務局

本日配布しためぐろの環境の資料編 112 ページに、環境保全の施策に要した主な経費を、このような形で見える化している。ご指摘のような、エビデンスに基づく費用対効果の検証までは見込んでいないが、区全体の方向性として、しっかりとしたエビデンスに基づいて施策を推進していくことになっているので、優先順位も含めて今後の検討課題としていきたいと思う。

○委員

めぐろの環境の 112～113 ページにあるようにそれぞれの施策にかかった経費を見える化することは非常に重要なこと。本当はこういった経費をかけることでCO<sub>2</sub>回収量が増えて、削減量にどれくらい寄与しているかといった数値化や定量化ができると良いと思う。直接的な施策から間接的な施策まで様々あり難しいとは思いますが、実際に使ったお金に対して、どれだけ削減につながる取組なのかということも含め、施策の結果を評価できるようなモデルづくりを推進していただければと思う。

○事務局

取組によってCO<sub>2</sub>排出量がどれだけ削減できたかの因果関係を示すのは非常に難しいところ。めぐろの環境の 11 ページに、「二酸化炭素排出量」と「エネルギー消費量」の最新値を掲載しているが、特別区の場合、特別区協議会という組織が区のCO<sub>2</sub>排出量を算出しており、国の数値が公表されて算出するまでにどうしても、2年遅れで出てくる状況がある。1kWの電気を作るのにどれだけのCO<sub>2</sub>が排出されるかは国のエネルギー政策に大きく関わってくる。再生可能エネルギーが増えれば、排出係数が下がり、CO<sub>2</sub>排出量が減っていき、それとエネルギー消費量を減らしていくことを併せて、ネットゼロになるようにしていく流れになると思う。ご意見いた

だいた視点でどういう形にすればわかりやすくなるか、お示しできるよう検討していきたい。

○委員

他区の助成制度の委員を担っているが、新製品・新技術を開発する際に、カーボンニュートラルに向けて取り組んでいる事業者等に、4/5と高い割合で助成する事業だったが、残念ながら候補がなかった。なぜかという、基本的な素材・技術・加工方法を変えてCO<sub>2</sub>の排出をゼロにすることは、現実問題、難しいからである。しかし、答申案にはCO<sub>2</sub>の排出をゼロにすることが記載されており、目標として、期待を込めて掲げているものだと思うが、製造方法や素材を変えていかなければいけないことに対してどのような対応をしていくつもりなのか。区の方針はこれについての記載がどこにもないが、どのように検討していくのか。区でやる対応ではないかもしれないが、考えを伺いたい。

○事務局

菅元総理がカーボンニュートラル宣言をし、それに基づいて地球温暖化対策法が改正され、2050年にはカーボンニュートラルにすることが法律に明記されている。また、東京都もゼロエミッションを掲げている。IPCC（気候変動に関する政府間パネル）も地球温暖化によって大きな影響がでているのは、人間社会が原因ということを確認しており、取り組まなければいけない状況である。法律で決まっていることもあり、区としては出来るところからやっていくという考え。環境に良いものをつくらなければならないというような製品に対する規制については、国の方で取り組んでいくことと認識しているので、区としては事業者への規制については考えていない。今回の計画では、区としてできることを示して、ゼロカーボンシティを目指していく。

○委員

そういった規制についての話ではなく、カーボンニュートラルに向けての取組をしたい人に対して、助成金を出すなど、制度的な支援ができればと思うが、区独自で何かお考えか。

○事務局

製品に対してではないが、区ではエコ・チャレンジ懸賞を毎年実施している。例えば、地域の清掃活動歴が長い方など、地域の環境を良くする活動をされた方に対して表彰する制度がある。

○委員

工業界の企業の課題として、製品の開発研究費はとてもお金がかかる。研究費の一部を補助する制度等、その辺りの支援のことは考えられているのか。

○事務局

産業経済・消費生活課に、そういった支援へのご要望があったことを伝える。

○会長

本日いただいたご意見は非常に重要なことがたくさんある。その中で、「基本的方向」に明示的に書き込むものもあれば、3ページにある全体像や位置付けに今後盛

り込まれていくべきこともあると思うので、事務局で検討いただきたい。

また、このような答申を最終的に取りまとめていく段階では、多少の修正は出てくると思うので、最終的には会長に一任させていただくということによろしいか。

○全委員  
了承。

**3 その他**

○事務局  
今回は、令和4年11月18日（金）18時30分から1時間半程度で開催を予定している。

今後の改定スケジュールについて、10月に前田委員と成田委員から区長に答申文を手渡していただく。続いて、11月の審議会で改定素案について議論いただき、12月にパブリックコメントを実施する。その後、パブリックコメントでのご意見も踏まえて、3月に新計画を決定する。

**4 閉会**

○会長  
本日の議事について意見や質問があれば、資料番号なし本日の議事についてのご意見に記入の上、10月5日（水）までに事務局へ提出していただきたい。

以上で令和4年度第2回目黒区環境審議会を閉会する。

以 上